



グループ 紹介

～読み手と聞き手による楽しいひととき～

読み聞かせボランティア

「めだか絵本の会」

熊野第三小学校の教室でのぞいてみると、大勢の笑顔の子どもたちが目に飛び込んできました。その子どもたちの前には、楽しく絵本を読んでいる方がいらっしやいます。皆さん、もうお分かりですね。今回は、絵本の読み聞かせを行っているボランティアグループをご紹介します。



グループの発足は平成13年で、現在は4名で活動を行っています。活動場所は、今回取材した熊野第三小学校のほかにも、保育所ひかり学園や西公民館の「ちびっこ集まれ」の中でも行っています。

実際にどのような本を読まれているのかお聞きすると、季節にあった本や学校の学習に関連する本、子どもたちに聞かせてあげたい本など様々です（読む本は、皆さんそれぞれで選んでいるそうです）。

次に、読む際に気を付ける点を伺ってみました。

「子どもたちが本の世界へ入ってくれるよう意識して読んでいます」

「声を大きくするよう心掛けています」

「声のトーンを高くしたり低くしたりと抑揚をつけて読んでいます」

教室で一緒に聞いてみると、子どもたちも興味津々。静かに聞いている中でも、その時々場面では様々な感想の声。子どもたちの顔を見ると、次の展開が楽しみなのか、ワクワクした表情もありました。

「各クラスで、子どもたちの反応が全然違うんですよ」「子どもたちも楽しんで聞



聞いています。私たちも楽しく読んでいます」

読み手と聞き手が共有する楽しいひととき、その思いが今回の取材で伝わってきました。



「めだか絵本の会」の皆さん

これからの抱負をお伺いすると、「長く続けていきたいです」「一冊でも子どもたちの記憶に残れば嬉しいです」と笑顔で答えていただきました。

最近では教育だけでなく、様々な場で読み聞かせは行われています。「聞く力」を養うという点からも、このような場が多く広がっていかばよいと感じました。機会があれば、皆さんも「絵本」の世界へ飛び込んでみてはいかがでしょう？

問い合わせ先

伊藤 善子
電話 854-0508

あとがき

「発見！熊野町のエエところ。」シリーズ第11回でお尋ねした、熊野中学校校歌の「3本目の川」は、筆の里工場の横を流れる『稚川』だそうでした。

当時は、台場から3本の川が見えたようです。教えてくださったみなさま、ありがとうございました。

幼少時代の楽しい思い出は一生の宝物。それぞれの校歌を通して、母校への愛着を深めていただけたらと、原稿を書いています。

伊藤 真由美



次の定例会は、

3月12日(水曜日)
開会を予定しています

議会でより題字

世木田江山さん

表紙写真

もちつき大会
(保育所ひかり学園)



この議会だよりは再生紙に「エコマーク」と「ノイザール」の認定を受けた環境対応型インキを使用して印刷されています。